かたちについて

お釈迦様のお悟りについて、三法印あるいは一つ足して四法印と申す言葉があります。一切皆苦（いっさいかいく）・諸行無常（しょぎょうむじょう）・諸法無我（しょほうむが）・涅槃寂静（ねはんじゃくじょう）がその内容ですが、『平家物語』の冒頭の「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」で有名な「諸行無常」とは、人の世に永遠不滅なものは存在しないという真理を意味します。人間そのものには限られた寿命があり、人間の作ったいかなるものも、やがて滅び去ります。では、滅びないものはないのかというと、「法（ダルマ）真理の意味」だけは永遠不滅であります。仏さま（ブッダ）のことを如来さま（タターガター）といいます。これは、「真理の世界からやって来た」という意味で、まるで宇宙からやってきたウルトラマンみたいですが、如来さまとウルトラマンと違うのは、人々を救うためウルトラマンの姿に変身し怪獣と戦うのがウルトラマンの本当の姿ですが、如来さま、つまり仏さまは色身仏といって、私たちにわかりやすいように、仏像にあらわされるようなお姿をして下さいますが、本当のお姿は法身仏といって、真理そのものなのです。したがって、仏さまは永遠不滅なのです。

震災によって貴重な人命はもとより大変多くのものが滅びました。多くの被災されたご家庭のお仏壇にお祀りのお仏像も厳しい状況であったと悲しい気持ちでおりますが、色身仏のお姿を写し取らせていただいたお仏像が傷つかれても、法身仏である仏さまはそのままご家族をお守り下さいますに違いありません。私たち浄土宗の教えでは、「南無阿弥陀仏」と口にお唱えすれば、いつどこであろうと、私たちの前に阿弥陀さまがやって来て下さいます。かたちは滅びても、真理は滅びることはなく、真理によって、かたちをまた作ればよいのです。

古代ギリシアの哲学者プラトンも「イデア」という言葉で同じようなことを考えました。この現

実の世界は不完全なもので、天上の「イデア界」に完全な世界があり、元々イデア界の住人であったのに、この地上に不完全な人間の肉体という牢獄に押し込められた私たち人間の魂は、故郷を懐かしく想起し、「イデア」つまり、英語のアイデアの語源ですが、頭のなかでひらめいたイデアを実現しようと行動するのです。人間の作るものすべてが完全なイデアに少しでも近づけようと努力した結果なのです。

さて、震災から一年半も過ぎ、本堂の再建へ向けて総代役員の方々とともに、いろいろと検討を重ねてまいりました。私にとって一番目の出発点は、本堂の「イデア」を求めることだと思いました。つまり、「かたち」を再建するにあたって、住職だけでなく、総代役員の方々だけでもなく、壇信徒の方々、もっと言うなら、安倉という土地に地縁のある方すべての魂が求めるイデアは何かということが、一番大切なことだと考えました。壊れた本堂は八代将軍吉宗公の享保年間に建てられ、その特徴は、際だって背の高い入母屋（いりもや）造りの屋根にありました。最近でこそ、高い建物が増えましたが、私の子供時代安倉のどこからでも本堂の屋根が見えたような気がします。近頃は、どこへ出かけてもつい町や村のなかのお寺に目がいきます。車の中からでも列車の中からでも、そこにお寺があると一目でわかるのは、やはり入母屋造りのお寺です。むかし、ヨーロッパを旅したとき、大きな街でも山奥の村でも一目でわかる尖塔の先に十字架を載せた教会が必ずありました。日本のお寺もヨーロッパの教会もそこに建っているだけで、その地域の人々の魂に安らぎを与えるものであるからすばらしく、また、そこにお寺がありますというランドマーク（めじるし）としての松林寺の本堂のイデアは入母屋造りの屋根ということにあると考えております。さて、イデアが思い浮かべば、次は「かたち」を現実化しなくてはなりません。その節には、皆様のご理解ご協力をお願い申しあげます。